第62回日本内科学会講演会（1965年）

シンポジウム 内科診療における酵素の意義*

司会者のことば

大阪大学教授

山村 雄 一

SYMPOSIUM ON THE SIGNIFICANCE OF ENZYME IN
THE FIELD OF INTERNAL MEDICINE

Moderator

Yuichi YAMAMURA, M.D.

The Third Department of Internal Medicine, Osaka University Medical School

酵素化学の進歩は大幅に内科学領域にとり入れられつゝある。これを大別すると① 診断、② 病因の解明、③ 酵素による治療、の三つになるが、本シンポジウムにおいては主として前2者について述べる。

診断において最も広く応用されているのは血清中の酵素活性である。しかし大切なことはそれがどの程度臓器組織の酵素活性や病状を反映しているか、ということである。

血清酵素活性の変動の原因としては① 壊死または変性組織からの遊出、② 酵素産生の異常、③細胞膜透過性の変化による逸脱、④ 酵素の排

泄障害、⑤ 血中酵素の活性化あるいは阻害による変化、などがあげられる。

このような血清中の酵素の変動の原因を明らかにするためにはアイソザイムについて研究したり、細胞内分布を追求することが必要である。

病因論的な立場からの生体内酵素活性の変動の研究は、先天性代謝異常の原因のいくつかを明らかにして来た。そのほか高血圧、糖尿病などの病因や病態の解明にも大きな寄与をしている。

酵素化学の知識を基盤として、以上の診断と病因に対する総論的考察を行ないたい。

* 1965年4月1日、東京都千代田区サンケイホールにて行なわれた。